

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者一人ひとりが、その人らしく生活を続けることが出来るよう、独自の理念をつくりあげている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や職員トイレの壁に理念を掲示し、職員会議などでも協議するなどしている。また、採用時にも理念を説明し共有できるようにしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には入所時に伝えており、毎月のお便りも実施している。地域住民に対しては開所前に説明会を実施したり、広報誌等でも情報を提供している。また、地域向けの講習会などでも説明するなどしている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の商店に買い物に毎日出かけたり、日々の挨拶や、散歩時に気軽に声を掛け合えるようにしている。果物や野菜などをおすそ分けして下さる方も増えた。職員にも地域との関わりの大切さを会議などで話している。	○	さらに立ち寄って下さる方が増えるように働きかけたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人の行事等に参加し、そこで地域の方との交流がある。しかし、自治会等への参加は出来ていないので、地域の方に声掛けなどをはじめた。	○	地域の方に参加していただくことはあるが、グループホームが地域の行事等にもっと参加することができるよう、地域の方の理解や協力も得ながら実施していきたい。そのためには、職員も地域のことをもっと知るよう努力したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症サポーター要請講座を開催するなどして、認知症や、グループホームの理解を得るよう努力している。また、市の地域ケア会議のメンバーとして認知症の理解の啓発に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員が行い、外部評価の結果はスタッフ会議で報告し、改善に向けて検討している		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所からの報告等を行い、参加メンバーからも建設的な意見等いただき、サービス向上に活かすよう努力している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とはお互いに連絡を取り合い、いつでも相談できる体制が取れている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会等に参加しているが、すべての職員に理解は出来ていない	○	スタッフ会議などで勉強会を開き理解を深める。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修へ参加するだけでなく、内部の研修会等も開催し学ぶ機会を設けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前には何度もご家族と話し合うようにして、納得いただいてから契約している。また、利用者の状況変化等により契約を解除する際にも十分話し合いを行い、関係機関等とも連携を図りながら行っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員を月1回派遣してもらい利用者さんの相談にのってもらっている。何事に対しても利用者さんの意見を聞いて、出来るだけその意見を反映するようにしている。</p>	<p>○</p> <p>もっと話を聴く機会をつくり利用者さんの意見などを引き出せるように働きかけたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月のお便りや写真を発送し、生活の様子を報告している。又面会時にも状況の報告を行い、状況の変化等あれば電話などで報告している。金銭の出納も定期的にコピーし報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約時に相談窓口等の説明をしている。又、意見箱を玄関に設置して意見や不満など表せるようにしている。お便りや面会時にもご意見やご不満など無いかたずねるようにしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>スタッフ会議や毎日のミーティングなどで意見を聞くようにしている。また、日ごろからコミュニケーションを図るようして意見の言いやすい雰囲気を作るように努力している</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>夜勤専門職員を配置せず、日中から夜間を通して利用者の状況がわかるようにしている。管理者は出来るだけ通常のシフトにいれず、夜間の対応や利用者の状況の変化に応じた柔軟な体制が取れるようにしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>移動は最小限にし、馴染みの職員が対応できるようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○	運営者及び管理者は、常に職員にも視点を置き、様子の変化を察知し、相談等を行うなどストレス解消に向け、更に取り組む。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	さらに1対1で話し合う機会を増やし状況の把握に努めたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な場合には地域包括支援センターや他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込み時にご本人も可能な限り見学にきていただくよう努めている。入居前には管理者だけでなくスタッフも一緒に訪問するなどして不安を軽減するようにしている。また、入居前には家族さんから入居についてご本人に説明し納得していただけるようにしている		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来るだけ利用者さんと共に過ごし、利用者さんが何を思い何を感じておられるのか理解するように努力している。職員が利用者さんからいたわってもらうことも多い。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に話をしたりすることで、家族さんともお互いの意見が言い合えるようになってきた。	○	利用者さんや家族さんの思いを受け止めるだけでなく、職員の思いを伝え、本人を支えていくための協力関係が、築けるようにする。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には居室で水入らずで過ごしてもらえようしたり、遠方からの帰省で外泊など困難な場合には泊まっていたりなどしている。又、面会が困難なときには電話で話していたりなどしている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時にご本人さんの生活歴など背景を理解できるように出来るだけ多くの情報を収集し、ご本人との会話などで馴染みの人や場所などを把握に努め、希望外出で出かけたりしている。馴染みの美容院に行き続けている利用者や、昔から参加していた会合に参加しておられる利用者もいる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性について職員が把握し、生活の場面場面で配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された方に会いに行ったり、遊びに来ていただいている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、ご本人はどうしたいと思っておられるかを把握するように心がけている。また、ご本人だけでなくご家族からも話を聞くなどして、情報を得ている。	○	その場面場面で、ご本人はどうしたいと思っておられるかを知ろうとすることが出来るよう、職員会議や日々のミーティングで話し合う。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族さんに協力していただき、生活歴や生活環境をチャートに記入してもらい、把握に努めている	○	入居時に得た情報だけでなく、グループホームの生活の中で得た情報を共有し、援助にもっと活かせるようにする。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人の生活の記録を、一人ひとりの生活の様子がわかるように工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日ごろの関わりの中で意見を聞いたり、ご本人や家族さんが大切にしておられる事を理解するように心がけ、そのことを反映させるようにしている。ミーティングやスタッフ会議で職員全員で意見交換等を行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月評価を行っている。介護計画の変更が必要などときにはその都度家族さんや職員と話し合いながら変更し対応している。その内容も電話だけでなく、お便りなどで知らせるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録にケア時にきずいた点などを記入しており、勤務開始前に確認している。さらに情報等の共有や再確認が必要な事は申し送りノートに記載し確認するようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	出来る限りグループホームの生活が継続できるように、受診介助や往診介助を行い、入院されても長期化しないよう連携を図っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアで習字の先生に来ていただいているが、もっと他の機関との協力が出来るようにしていきたい。	○	地域の資源を把握し、働きかけやボランティアへの協力を呼びかけると共に本人の意向や必要性を再確認する。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特に取り組んでいない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	困難事例や、事業所内で解決できない問題等について、地域包括支援センターに相談できる体制が出来ている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ利用前からの、医療が受けられるように支援している。また、受診時等には、職員が同行したり書面などで生活の情報を提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医に、協力医療機関になってもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が、看護師であるため、普段の状態や個別の状況等で、対応を行っている。かかりつけ医の看護師との連携も密に取れている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、必要な情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞いに行ったり、家族とも連絡を取っている。出来るだけ、入院が長期にならないよう、病院関係者との連携に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や、終末期のあり方について、本人や家族の意向を確認し、かかりつけ医とも話し合いを行っており、状態の変化があるごとに、話し合いを繰り返すなど、行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の意向を確認し、対応出来ることと、出来ないことをこちらからも説明し、医師、職員が連携をとり、安心して終末期を過ごしていけるよう取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られる場合、アセスメントや生活の様子など、出来るだけたくさん、情報提供し、今までの暮らしを継続することが出来るよう支援している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングや記録などで、イニシャルを使用しプライバシーの確保につとめている。また介護時にもさり気なく声掛けをして利用者の誇りを傷つけないようしている。	○ 慣れ親しんだ関係により、配慮がおろそかになってしまわないようにミーティングや職員会議で確認する
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人一人の力に合わせて、声を掛け意思表示をしていただけるようにしている。可能な限り、利用者さんの意見を尊重している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースや体調等を尊重した支援に努めているが、一人一人の状態や思いへの対応が出来ていないこともある。	○ 一人一人の状態や、思いに配慮した対応をすべて行うことは、難しいが、出来るだけ柔軟に支援することが出来るよう努めていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の着替えは利用者さんにその服で良いか確認しながら更衣していただくようにしている。理美容は、家族さんの協力もお願いして本人の望む美容院にいけるように支援したり、移動理美容カーを使用される場合も、本人の希望にあわせたカットや毛染めをしてもらっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者それぞれの食事の好みを把握しており、献立なども利用者と一緒に決めたり、交代で食事作りも行っている。毎食職員も一緒に食事を食べ、食事は楽しい時間となっている	○
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員が利用者それぞれの嗜好を把握しており、体調なども配慮しながら楽しめるように支援している。	飲み物の種類などを増やして本人の好みに合わせたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄のパターンを把握して、さり気なくお誘いするなどして支援している。失敗があった場合にも他の利用者に気がつかれないように配慮している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居時に入浴について希望を確認し、時間帯や回数など出来るだけ希望に添えるよう対応している。又、入浴をあまり好まれない方には言葉がけ等の工夫をして入浴支援を試みている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	消灯などの決まりは無く、本人の状況に合わせて睡眠の介助をしている。心地よく寝ていただけるように、一人一人に合わせて室温の設定や、体調や睡眠状況に応じて起床も支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や話などから、何が楽しみなのか等を把握するように努め、野菜づくりや炊事・買い物など、張り合いのある日々を過ごしていただけるようにしているが、まだ不十分である。	○	利用者さん一人ひとりの希望に添った外出支援を始めた。外出以外にも楽しみや張り合いのある日々を過ごして頂けるように取り組みたい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にお金の所持等について意向の確認をし、小額でも手元にお金を置くことが可能な方は家族に協力を得て持ってもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材等の買い物に順番で出かけている。又、家族に協力してもらい外泊や外出などしていただくようにしている。利用者さん一人ひとりの希望に添った外出支援を始めた。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者さん一人ひとりの希望に添った外出支援を始めた。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	他の人に聞こえないような場所に公衆電話を背治している。なかなか面会に来ることの出来ない利用者さんの家族さんには電話をしていただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の方にはそれぞれの居室でお茶を飲むなどしてゆっくりと過ごしていただくようにしている。又、遠方から帰省された家族さんには泊まって頂いたり、食事を一緒にしていただけるようにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置しており、毎月会議を開催し、身体拘束はしない方針である。全職員対象にアンケートや研修会も実施している		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵はかけていない。事故防止及び来客の確認のため玄関にチャイムを設置しているが、無理にとめるのではなく、さりげなく声を掛けたり一緒についていくなどしている		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常にリビング近くにおいて、連携をとりながら全利用者の居場所や様子などを把握するよう努めている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみや包丁などは、隠すのではなく安全に使用できるよう見守っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各マニュアルを作成し、事故などが発生した場合は報告書を作成し、原因の追究と事故の再発に勤めている。	○	マニュアルの周知徹底を図る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	各マニュアルを作成している。消防署の協力を得て研修も実施した。	○	マニュアルの周知徹底を図る。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災委員会が中心となり、定期的避難訓練等行っている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて把握するよう勤め、その都度家族さんに説明し、その利用者についてどのように対応することが良いのか話し合っている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の状況を常に把握しており、体調等に変化の見られるときには、バイタルチェック等を行って、主任に報告、相談する体制も整っている。状況によっては主治医に連絡するなどの対応を行っている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に勤めている	飲み忘れや誤薬が無いよう、服薬確認表を作成している。薬の内容が変更になったり、その際の観察事項や注意事項は連絡し、把握しているが、服用しているすべての薬についての把握は不十分である	○	全職員が薬の内容及び副作用等を把握できるようにする。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人一人の排便の状況を把握しており、便秘気味の利用者については、極力下剤を服用されなくても良いようオリゴ糖や寒天などを摂っていただいたり、下剤を使用される場合もその人にあった下剤を調べ量も調整している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時及び毎食後口腔ケアの実施を利用者の状況に合わせてしている。また、口腔の清潔が肺炎の予防にもなるということを職員にも指導している。(今年度のチーム目標として取り組んでいる)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取状況を毎日チェック表に記入し、日々の申し送りでも伝え、援助につなげている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策委員会に参加し、各マニュアルを作成し、全職員が把握し実行できるよう勉強会も行い、感染症の予防に努めている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ほぼ毎日買い物をし、食材の買い置きを極力少なくしている。調理器具の清潔・衛生を保つよう、食器は布巾では拭かない・まな板は漂白剤を使用するなど、職員間で取り決めがある		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には手作りの表札にしたり、玄関にはいつも花をいけるなどして出来るだけ家庭的な雰囲気になるように努力している		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとってなじみのものを取り入れたり出来ていないが、ご飯を作るときの音や匂いなど、生活を感じていただけていると思う。	○	季節に合わせた空間づくりに取り組みたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや食堂、談話室以外でも過ごしていただいているが、十分とはいえないため、職員会議で話し合った。足腰の弱い方でも楽に使っていただけるように座椅子などを準備した。	○	談話室での居心地をよくなる様取り組んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ居心地の良い部屋になるよう、家族さんの協力を得ながらテレビやこたつ、家族の写真を飾ってもらうなどして支援している。また、家からタンスや仏壇も希望される方には持ってきてもらっている。タンスやベットの配置は本人と家族によって決めてもらうなどしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度や湿度を常に確認し、換気も出来るだけ行うようにしている。	○	冬場夜間のトイレの温度が気になるので検討していく。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置等で転倒につながる危険性がないか確認し、安全の確保と自立への配慮に勤めている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の混乱を招くような環境の原因は何かを把握し、その都度職員間で話し合い、極力混乱の少ない生活を送っていただけるように支援している		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑には好きなときに出ていただけるようにしているが、もっと外気を他の利用者さんにも楽しんでもらえるような工夫が不足している	○	ベランダの活用方法を運営推進委員会やスタッフ会議で検討中である。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

湯の郷苑グループホームだんらんは、利用者一人一人の特性を大切にし穏やかで心地よい日々を過ごしていただけるよう、職員間の連携を図り、利用者さん一人ひとりが今何を考え何を思いどうしたいのかを考えて支援するよう心がけています。利用者の活力を引き出すために当番制で買い物に行ったり、炊事をしていただいています。利用者さんだけの支援でなく、グループホームに入居しても良い家族関係が継続できるよう家族さんともコミュニケーションを図りながら支援しています。

『いつも笑顔で優しい言葉』

『目配り・気配り・心配り』